



黒田インターナショナル メディカルリプロダクション

東京都中央区新川2-22-1 能登ビル6F
TEL.03-3555-5650 FAX.03-3555-5651
<http://www.kuroda-imr.com/>

高精度な不妊治療「黒田メソッド」を考案 ご夫婦と三位一体で信頼ある医療に尽力

対談

院長・医学博士

黒田優佳子

インタビュー「野球評論家

角盈男

日本産科婦人科学会専門医

角 不妊でお悩みのカップルを専門に治療しておられる黒田インターナショナルメディカルリプロダクション(黒田IMR)の黒田優佳子院長をお訪ねしました。高度な医学的研究と臨床により蓄積された「黒田メソッド」と呼ばれる独自の精子機能評価・選別法と高精度培養システムを、精鋭のスタッフと共に実践し成果を上げておられると伺いました。今や不妊治療は社会的使命を帯びていると言っても過言ではなく、少子化が進むほど関心も期待も高まっていくと思うのですが、院長はなぜこの分野を

専門にしようと考えられたのか、まずはそのきっかけからお聞きしたいと思います。

黒田 マスメディアでは「不妊治療」と呼ばれていますが、学術的には「生殖医療」と呼ばれます。これまでを理解して頂くために、私が医師を目指した動機からお話したいと思うのですが、そもそも親族にこそ医師は多いものの、父が実業家だったことから私は医師という職業を身近に感じて育ったわけではありませんでした。ただ、どういふきっかけか物心ついた時から本で読んで「赤ひげ先生」が忘れられず、小学校三年生

の頃には世のため人のためになる医師に憧れを抱くようになっておりました。

角 なるほど。子供の頃に抱いた夢は成長するにつれて確固たる目標になったと。黒田 確かにそれは言えると思います。ただ単純に夢のためまっしぐらに走り出しましたが、現実問題として医学部に入るには一定の成績を収めなければなりません。そこで私は中学校の後半くらいからいわゆるガリ勉になり(笑)、教科書や参考書に埋もれるようにして日々受験に備えました。そして成果が実って慶應大学医学部に縁を

頂き、医師としてスタート地点に立つことができた次第で、振り返ってみますと実家が医師と関係なかった分だけ医療のマイナスイ面を見ることなく、また、医師という職業に憧れ続けていられたからこそ受験勉強も頑張れたのだと思います。

角 努力により晴れて医学生になられたわけですが、生殖医療を専門に研究しようとしたのはいつ頃からですか。

黒田 医学部の専門課程に入った比較的早い時期から、進むなら生殖医療の方向と決めておりました。日本で初めて体外受精でベビーが誕生したのは今から約三十年前ですが、その頃タイミング良く私も医学部で発生学——精子と卵子が一体となり臓器や皮膚ができる過程や遺伝情報の伝わり方など、人体が形成されていく仕組みについてを学んでいたのです。学べば学ぶほど生命誕生の神秘性に感動すると同時に衝撃を受け、私自身も父と母の生殖細胞と一緒になって生まれたのだと思うと、自然や宇宙に対して感謝の気持ちでいっぱいになりました。それらをバックボーンに「生殖医療」という学問を貫き、絶対に自分のライフワークにするのだ」という信念が日を追うごとに増していったわけです。

更なる進歩が期待できる不妊治療

角 医師になった動機や生殖医療を選択されたプロセスから、黒田院長の人物がよく理解できました。目標を見付けたらブレることなく邁進されるタイプですね。

黒田 現代の医学部の学生は総体的に見て何事にも冷静な人が多いのですが、私達の時代はこれだと思ったらひたむきに突っ走る学生がたくさんいたように思います。もちろん私もその中の一人でしたが、何事も決めたことを実現するための努力を惜しんで

はいけないと思います。私の場合は目標を邪魔するファクターが一切なく、思い通り進むことができたのは幸運でした。

角 卒業後も慶應大学医学部でスキルアップを図られたのですか。

黒田 はい。医学部で六年ほど学んでから大学院に入り直して四年にわたり専門的な研究を重ね、そして白金台にある東京大学医科学研究所ヘライフワークを持ち込む形で移り、精子機能の解析などを研究し、「黒田メソッド」として評価を頂いた精子機能評価・選別法と高精度培養システムなどの治療法を確立するに至りました。医学部で六年、大学院で四年、医科研で二年——通算しますと十二年間ひたすら研究中心の生活を続けたわけですが、医科研修後は母校に戻り大病院で研究・臨床・教育のいわゆる三本柱に携わることになりました。先程もお話しましたが、日本で初めて体外受精で赤ちゃんが誕生したのは約三十年前であり、顕微





黒田インターナショナル メディカル リプロダクション(黒田IMR)の黒田優佳子院長は、生殖医療における長年の研究から「黒田メソッド」を確立し、独自の高機能培養システムと共に新規男性不妊検査・治療法を発案するなど医療界や患者サイドから絶大な信望を得ている。特殊かつ専門的な検査を行なう不妊治療の性質上、会員制・予約制の自由診療を掲げているが、JR東京駅・八重洲中央口から程近いこともあり治療を希望するカップルは多く、今や国内のみならず欧米や中国・韓国など世界各国にまで及んでいる。

INTERVIEW YUKAKO KURODA × MITSUO SUMI

授精の成功は更に数年待たなければなりません。メディアで不妊治療は学術的に完成を見た学問のように報じられておりますが、実はまだまだ歴史が浅く、技術的に著しく進歩はしているものの今なお発展途上にあり、研究も全くと言っていいほど時流に追いついていない未熟な学問です。それだけに技術的にも研究分野でも可能性が開ける余地が大きいことを皆様にお伝えしながら、現時点で最高レベルの治療の提供をと考えております。

角 大学で様々な実績を収められたようですが、開業を決意されたのはその成果を多くの患者さんのために役立てようとお考えになったからですか。

黒田 はい。精子の機能解析など私の研究は生殖医療の遅れていた部分に着目したことと独創性が認められ、女性では初めて慶應大病院産婦人科医長のポストに迎えて頂きましたが、私が医師を志した原点である「世のため人のための赤ひげ先生」を実現するには、大きな組織の中にあるより患者さんと身近に接するべきではないかと開業の道を進むことにお陰様で今年で十年という節目の年を迎えることができました。

角 では、治療の流れを教えてください。

黒田 不妊の原因説明は患者さんとの十分なコミュニケーションから始まります。プライベートに踏み込んだカウンセリングを行なう場合もありますし、高度な検査も必要になりますので保険の枠内では対応しきれず、自由診療が中心となります。

角 それでも納得して下さる方を対象に治療を行なうということですね。

黒田 保険診療が当然という日本において当院のような医療スタイルはまだ理解してもらいにくく、患者さんも大半はご紹介や口コミです。しかし北は北海道から南は沖

縄更には欧米や韓国、中国などからわざわざ足を運んで下さっており、医師冥利に尽きると心より感謝しております。

温かい心でご夫婦と共に前進を
角 ところで、精子機能の解析で高い評価を得ていらっしゃることも分かるように、黒田院長は生殖医療の中でもとりわけ男性不妊に力を注いでおられるとのこと。これまで不妊といえは女性側に責任があるかのように考えられてきたと思いますが、実際のところ治療を受けなければならぬのは男性・女性どちらが多いのですか。

黒田 一概には申し上げられませんが半々ではないかと思えます。不妊は女性に原因があると決めつけるのは男性社会が長く続いたという歴史的背景があるからで、女性に問題があると考えられてきたため卵子学の研究は医学の発展に応じて成熟し、一方で不妊の理由が男性にあるなどあり得ないとの固定観念が精子の研究を遅らせました。私は患者さんそれぞれのお話に耳を傾け、適切なカウンセリングを行ないながら男性・女性のどちらに問題があるかを見極め、状況に応じた治療を提供させて頂きたいと考えております。

角 体外受精及び顕微授精は生命誕生に直結する非常に繊細な医療で、すべてが科学的に説明されたわけではありませんね。

黒田 その通りです。不妊治療の基本は卵子の中に精子を注入することにあります。が、男性側の原因として多いのは精子の活動と数の不足です。人の精子は健康な場合でもすべてがパーフェクトではなく、一定の割合で傷ついた精子が混在します。学術的には特殊性があり興味深い現象ですが、治療現場では傷ついたものを排除し、完璧な精子を選んで卵子に注入する作業が

重要になります。

角 一見して動きが活発な精子だからという理由だけで、それを選んで卵子に注入するのは問題があるのでしょうか。

黒田 はい。黒田IMRでは一匹の精子を選ぶことにすべてを賭けていると申し上げても過言ではありません。つまり卵子に注入する精子は慎重かつ繊細に選ばないと理想的な妊娠には繋がらないからでして、活発に動いただけでなく、なぜ精子が元気のなかという根拠や代謝、卵と接着する機能を備えているか、遺伝情報の伝達には問題がないかまで配慮しながら一匹を選ぶ治療を行ないます。精子の選別にこだわることには「黒田メソッド」の大きな特徴であり、私は精子を分かりやすく車に例えてみるのですよ。単に新車であるから良いというものではなく、内蔵されたエンジンはしっかりとしているか、エンジンを効率よく動かすだけのガソリンは満たされているかなど、相互作用を見極めることまで追究するのが私の精子の機能解析評価法であり、それを基本に個々のケースを考えながら治療を展開していきます。

角 院長の熱意やポリシーを伺えば、不妊を積極的に克服しようとするカップルには、ぜひ黒田IMRでカウンセリングを受けてほしいですね。診察時間はどのように。

黒田 午前が九時～十一時三十分、午後が十三時～十七時で、木曜・日曜・祝日が休診です。ただし当院は完全予約制ですのでお越しになる際は事前に電話での予約が必要となります。また、ホームページにアクセスして頂ければ理念や方針の他、治療内容や基本的な料金設定など概要をご覧いただけます。

角 高度な治療を提供されるにはスタッフの協力も不可欠だと思います。院長が普段から指導していることは何でしょうか。

黒田 どんな名医でもチームワークに支えられなければ良質な医療を実践することはできない——これまでの経験から私自身このことは十分に承知しております。ですから事務方も看護師も技師もすべて「オフィシャルファミリー」との認識を持ち、それぞれの職種でプロ意識を感じながら自分に厳しく患者さんに接することが良い結果に繋がっていくのだと思います。ですから私は常々スタッフに対し、お金を得るよりもプロフェッショナルになるという意識を高く持って努力してほしいと願っております。

角 最後に将来の抱負をお聞かせ下さい。

黒田 生殖医療には倫理観・道徳観が他の医療現場よりも一層厳しく求められますから、人の命を救うだけではなく、命を誕生させるという「二つの生命」を預かる専門職であることのプライドをしっかり持って人間的な内面性をもっと磨き、患者さんに「この医師にならばすべてを委ねられる」と信頼して頂けるよう、これからも成長し続けたいですね。ご存じのように不妊治療はなかなか結果の出にくい分野でもありますが、それだけにどのような場合でも愛情を持って患者さんと接し、生命誕生に関して私ども黒田IMRと患者さんご夫婦が三位一体となって取り組んできた実感できる治療を今後も続けてまいりたいです。私自身、四十六歳とまだまだ未熟な部分があります。が、その時々で心ある治療を心掛けながら患者さん、医師、そしてスタッフと信頼関係を築いていけるよう医療環境を整えたいです。黒田IMRという小さな場所ではありますが、当院ならではの医療スタンダードを発信していければと考えております。

角 本日は私自身とても良い勉強になりました。今後も高い意識を持続しながら全力で治療に当たって頂きたいと思っております。